

「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい」。

先ほど読まれました本日の福音書の中で、ある人の質問に対して主イエスが答えられたのがこの言葉でした。この人は子供のころからモーセの十戒を忠実に守りながら生涯を過ごしてきたようです。しかしそれによって永遠の命が得られるとは思えなかったのです。自分自身を常に戒め、律しながら生活していても、この世のものではない永遠の喜びを実感することが出来なかったのです。そこで主イエスに対して永遠の命を得るにはどうしたらよいのかと尋ねたのでした。

主イエスは、この人が十戒をよく守っていることを御存知でおられました。それなのにどうしてこの人は主イエスの教えと離れていたのでしょうか。

ここに書かれているのは、十戒の五番目から最後までのもので、十戒は最初から四番目までが主なる神に対する教え、そして五番目から最後までが隣人に対する教えになっています。これをよく見てみますと、父と母とを敬えの他はすべて～してはならないという教えになっています。すなわち積極的な意味ではなく、単にしなければよいという守り方も出来るわけです。この人が守ってきたという守り方は、実はこういうことだったのです。

主イエスは、十戒に禁じられていることをしなければよいとは言われませんでした。ただ単にしなければよいというのではなく、大切なのは自分に与えられている賜物をどれだけ有効に用いて主なる神に仕えようとしているかであると言われたのです。ただ何もしないでいても律法の違反にはならないが、それは主なる神の使命を忠実に果たしていることにはならない、土の中に宝をしまっておくのと同じであると言われたのです。私たちはそれぞれ主なる神から素晴らしい賜物をいただいています。それをささげて生きることが主イエスの教えであるのです。

主イエスの答えを聞いたこの人は、悲しみながら立ち去っていきました。たくさんの財産を持っていたからでした。すなわちこの人は、自分が所有している財産をすべて放棄することなど考えも出来なかったのです。

ユダヤの社会では、家が繁栄しているのは神の祝福があるからだと考えられていたもので、弟子たちが驚いたのも無理はありません。

この人の姿をみて、何と不信仰な、なんと自分勝手な人であろうと思われるかも知れ

ません。しかしこの人の姿こそ、私たちの生きている社会そのものであるのです。私たちの世界では、たくさんの財産を持っている人ほど自分の意志を主張して生きられるようになっていきます。財産のない人は、今自分の命が終わろうとしているときにも、誰もそれに気づかないような状況に追いやられてしまいがちです。すなわちユダヤの社会の常識とよく似ています。しかしよく考えてみますと、いくら財産を持っていたところで、もし命を落としてしまったら何の役に立つでしょうか。財産をもって天国に行き、その財産の量によって天国に入れたりはいれなかったりするのでしょうか？。第一財産をもって天国へいけるのでしょうか？。人間は明日自分が生きているのかどうかもわからないで生きているのです。財産に固執することは、このような人間の姿を忘れていることの現れでありましょう。

また、この世界には金銭をはるかに超えた価値があり、価格のつけられないものが存在することは事実です。自分自身の財産の依存するかぎりは、そうした価値に目を向けることが出来ない、決して救われることが出来ない、神の救いと力を信頼する者こそ、永遠の命に至る救いに入ることが出来るのだと、主イエスは教えておられるのです。

二一世紀を迎えた今、物質主義は益々強くなっており、人々の財産への依存も強くなっています。そして今楽しければそれでよいと考える人も増えているようです。キリストに連なる私たちは、この時代にこそ無限の価値を教えてくださいました主イエスを人々に伝え、物質文明の渦中にある人々の心を主イエスに向けねばなりません。「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい」。この言葉に現在の人々は何と答えようとしているのでしょうか。そして私たち自身も如何に答えようとするのでしょうか。

また、神には何でも出来るからだ、と主イエスは最後に言っておられます。神は何でもお出来になるのは当然であります。神の国に私たちを迎え入れるために、どのような業を行われるのでありましょうか。私たちが金銭に固執していても神の国に入れるようにして下さるのではないことは、本日の福音書から明らかであります。まず、私たちが有限なものにのみ心を奪われるのではなく、永遠の、そしてこの世界のものではない価値、秩序を願い求め、神の国に入るにふさわしい者となるように、神の国に近づく者になるように、主なる神はみ業を行われるということです。私たちに対して、自分の出来る限りの努力を求められていることを忘れてはならないのです。その向こうに、無限の力を持つ主なる神は、神の国に私たちを迎え入れるための力を働かせて下さるのです。

主の導きが豊かにありますように。